

植物研究の活性化と自社開発原料の拡大を図る

アルビオン白神研究所 農地を拡大・取得

>>>2018. 11. 07

株式会社アルビオン(東京・中央区、小林 章一代表取締役社長)は、化粧品原料となる植物を栽培している秋田県藤里町のアルビオン白神研究所において、圃場となる土地を拡大(61,721㎡)し、2018年10月に子会社である農地所有適格法人 株式会社アルビオン白神研究所(2017年2月設立)にて購入、自社農地として取得いたしました。

アルビオン白神研究所は、2010年に白神山地のふもとに位置する秋田県藤里町に開設し、同町より賃借した農地にて化粧品原料となる植物の自社栽培および、植物に特化した原料の開発・基礎研究を行なってきました。

開所時より徐々に拡大してきた農地は27,411㎡でしたが、このたび、植物原料の安定供給とさらなる研究活動推進のため、同農地および隣接地の合計 61,721㎡を、子会社である農地所有適格法人 株式会社アルビオン白神研究所にて藤里町より購入し、自社の所有農地としました。

企業が農地を取得することは農地法などにより様々なハードルがありますが、自分達の手で安心して安全な植物を栽培することにこだわり、子会社を設立し、藤里町や地域の協力も得ながら準備を整え、このたびの取得に至りました。

これまで、ヨモギやマロウなど約45種の植物を栽培し、そのうちの5種を植物エキスとして原料化した化粧品専門店ブランド「イグニス」などの商品に配合していましたが、この拡大・取得を機に、試験植物および原料となる植物品種を拡大していく計画で、2019年秋には新たに5種の白神産の植物を配合した商品を「アルビオン」ブランドから初めて発売する予定です。

また2018年度よりぶどう栽培にも着手しており、現在は藤里町より借り受けている約10,000㎡のぶどう畑の取得も視野に入れるなど、さらなる農地拡大・取得による植物研究の活性化と自社開発原料の拡大を図ってまいります。



61,721㎡に拡大したアルビオン白神ファーム全景

▼アルビオン白神研究所

詳しくはこちら <http://www.albion.co.jp/company/philosophy/rd/res/>

▼白神研究所の様子を動画でご覧頂けます

<https://www.youtube.com/watch?v=ujtGIfb3PYo>